

1 単元名 「かたち」

2 研究仮説

本校の研究仮説

算数の基礎的・基本的事項を押さえた指導法を工夫し、単元や一単位時間の中で作業的・体験的な算数的活動を工夫し、個に応じた支援を講ずるならば、子どもたちは図形を理解し、図形についての豊かな感覚が育ち、そして意欲的に学習に取り組むのではないか。

(2) 学年の授業仮説

身近な立体の特徴をとらえた指導法を工夫し、その特徴に着目させ分類・組み立て・平面図形の抽出等の作業的・体験的な算数的活動を展開すれば、図形についての豊かな感覚が育ち意欲的に学習に取り組むのではないか。

3 指導の具体的な手立てについて

教材研究

①資料の収集、活用（夏休み中）

※箱や空き缶などの準備を夏休み中にしてもらうよう保護者に学級通信などで早めに依頼

②プリントの相互提供

③教具の工夫（色画用紙で作った基本図形、ブラックボックスなど）

(2) 授業の中で

[導入]

- ・ 目当ての掲示の工夫
- ・ 意欲付けの工夫
- ・ 前時の復習

[展開]

- ・ ノート指導 升目 板書とノートの一致
- ・ 操作活動の重視（はさみのりの使い方）
- ・ 教え合い学習